市川中

見方・考え方を働かせながら、
自分の考えを広げ深める学習指導の在り方

～言語活動と振り返りの場の設定の工夫を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　老久保　智

１　研究主題について

本校は昨年度から、今年度より全面実施される新学習指導要領において、学習内容を学ぶことで「何ができるようになるか」という視点を重視するとともに、「資質・能力」を育むための、各教科を学ぶ本質的な意義の中核をなすのが「見方・考え方」と捉え、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んできた。しかし教育指導課・総合教育センター訪問の縮小実施や校内での研究授業を行うことができず、校内研究のテーマに迫った研究が思うようにできなかった。そこで、昨年度にそれぞれ各自で進めてきた授業における学習課題や場面の設定の工夫と、振り返り活動の取り入れ方の工夫を共有できるよう、改めて本主題を設定することにした。

２　研究のねらい

自分の考えを広げ深める学習指導の在り方を、各教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定していくかを授業で工夫すること、言語活動を取り入れ論理的な思考場面を取り入れること、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を工夫して設けることを通して明らかにする。

３　研究仮説

(1) 各教科ごとに「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定していくかを授業で工夫することと、言語活動を取り入れ論理的な思考場面を設定することで、知識・理解の質を高め資質・能力を育むことができる。

(2) 生徒が学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりする活動を工夫して設けることで、目標をもって学習に向かう姿勢や多面的、多角的にものごとを捉え考える力を養うことができる。

４　研究内容

(1) 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせやすい学習課題を設定した授業を実践する。また、言語活動を取り入れ、論理的な思考場面を設定する。

(2) 授業の中に振り返りの場を設定し、「何ができるようになったか」を明確にし、次への意欲につなげるようにする。振り返りシートなどを活用し、変容を見取る評価の方法を工夫する。

５　研究の経過

(1) 研究仮設に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要等
１０	１３	授業研究①（初任者研修）１年社会　授業者　中村　鴻作 講師　坂井　一史（初任者研修拠点校指導教員） 題材名「都市化が進む東南アジア」
１０	１５	授業研究②（要請訪問）　３年社会　授業者　山端　研人 講師　大下　洋一（八戸市総合教育センター主任指導主事） 題材名「あなたは将来何のために働く？」

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
5	２６	新学習指導要領における観点別評価と５段階評価の整合性に関する研修 講師　日向端　聖（八戸市教育委員会教育指導課副参事）
6	2	通信票に掲載する各教科の観点別評価基準に関する研修
7	7	教育指導課・総合教育センター訪問の指導案の書き方に関する研修
8	１７	教育課程報告書の読み合わせ（領域部会・教科部会） ＮＲＴの分析（教科部会）
１１	4	言語活動の工夫、振り返りの場の設定の工夫に関する研修
１１	１８	学校等における法務相談体制整備に関する研修 講師　上野　大輔（たいよう総合法律経済事務局弁護士）
2	2	次年度における校内研修研究主題の確認

６　研究の成果

(1) １人１台端末を活用した授業研究を２回行い、活用方法やその有効性を教員同士で共有することができた。

(2) 新学習指導要領における観点別評価と５段階評価の整合性について、全教員で共通理解を図ることができた。

７　研究の課題

(1) 校内研究のテーマに基づいた授業研究を行うことで、言語活動の工夫、振り返りの場の設定の工夫について意見交換をすることができた。様々な領域や教科での実践例を交換し合うことができたので、次年度はお互いにそれらの良いところを取り入れ、さらに工夫改善に努めていきたい。

（記入者　澤田　新吾）